



1636年～1869年(約230年)

伊予西條藩を知る ⑱

(第一次西條藩)一柳家、(第二次西條藩)松平家



新幹線の生みの親「十河信二 1884～1981」

西条市の名誉市民第一号 | 昭和44年

「新幹線の生みの親・新幹線の父」として知られる第4代国鉄総裁の十河(そごう)信二と妻キクさんをNHK連続テレビ小説(朝ドラ)の主人公にして欲しいと、ゆかりの愛媛県、西条市と新居浜市で署名運動が始まっている。

このNHK朝ドラ誘致活動は、愛媛県知事の選挙公約で、愛媛県として「十河信二と妻キク」で決定し、NHK松山放送局も同決定を評価し、誘致に向け協力することとなり今日に至る。



では、十河信二(そごうしんじ)とはどういう人物なのか?

明治17(1884)年、新居浜市中萩で生まれる。西條中学(現在の西条高校)を卒業し、東京帝国大学法科大学(法学部)に進み、岡崎キクさん(北海道出身 | 東京音楽学校在学)と1907年に学生結婚した。キクの父親の実兄は、清水の次郎長一家の大政だった。十河は卒業後、明治42(1909)年から鉄道院(旧国鉄、今のJR)に就職し、鉄道の仕事に取り組んだ。大正12(1923)年、南満州鉄道株式会社(満鉄)の理事などを歴任し(大陸の虎という異名をとった)、昭和13(1938)年まで中国で仕事をす。そして、終戦後の昭和20(1945)年に西条市長を務め、就任の条件は「中央から呼出しがあれば辞めて帰る」「給料は一切受け取らない」「市長辞めよ」の声が一人でもあれば辞めて帰る」と三条件を出した。(2代目西条市長:昭和20年～21年)その間、埋め立て工場誘致を計画した。

昭和30(1955)年、71歳となった十河信二は国鉄の総裁に就任し、国鉄の再建と近代化に努めた。しかし、夢であった新幹線の計画には、多くの困難が待ち受けていたが、世界で最新の車両や設備を完成させ、昭和39(1964)年10月1日 東京オリンピック開催の年に新幹線は走り始め、人々は「新幹線の父」と十河信二を称えた。東海道新幹線は、総裁退任翌年の64年に開通。



十河信二が鉄道と関わるようになったのは、東大法学部の卒業間近のことである。当初、十河は農商務省に就職が内定していた。しかし、知り合いの紹介で鉄道院(現在の国土交通省)の初代総裁後藤新平と面会して、進路を変えた。

後藤に「大衆に奉仕したいから農商務省を選んだ」と告げると、「ならば、鉄道院に来たらどうか。鉄道院の方がもっと国民生活に密着しているのではないか」と後藤は言った。この後藤新平との出会いにより、十河は鉄道院に奉職することになる。